
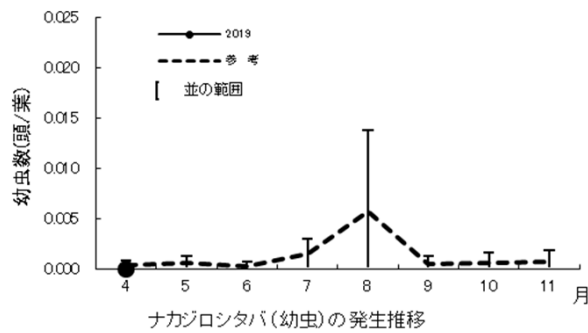
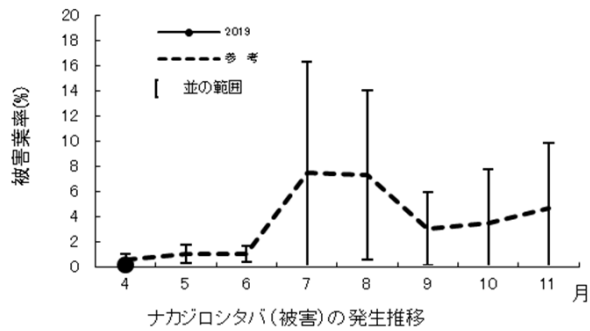



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

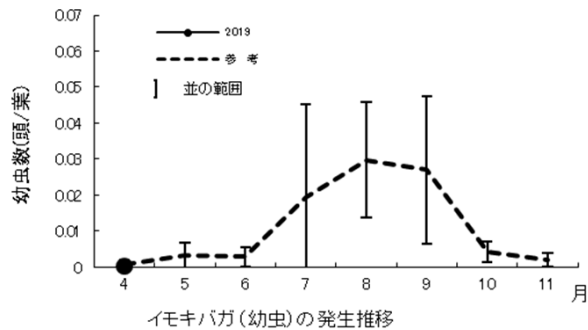
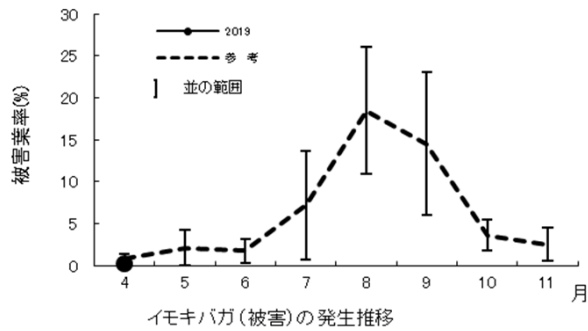


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



防除のポイント

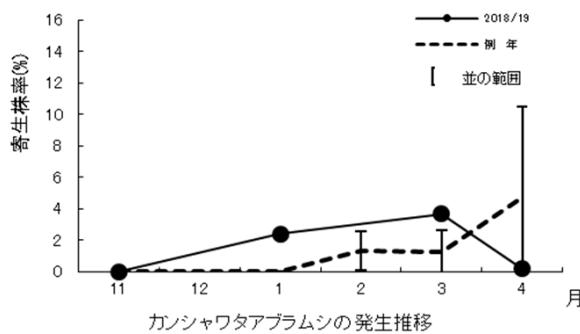
- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	カンシャワタアブラムシ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	-	
	4 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	判定不可	
	その他 (気象要因など)		

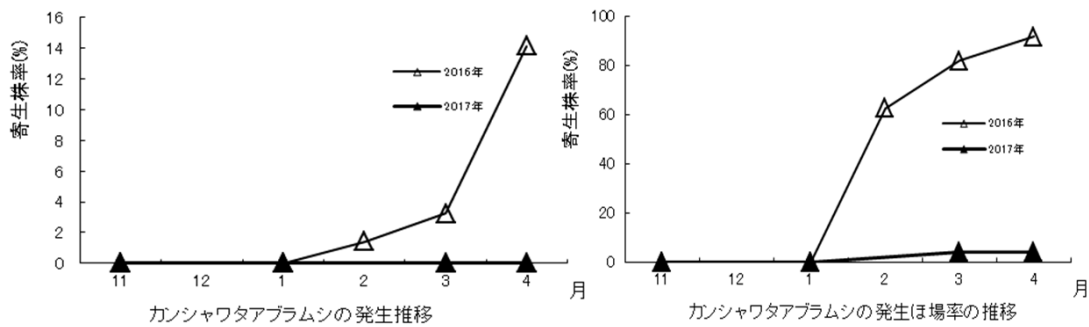


調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ※ カンシャワタアブラムシのほ場発生率は75%である
- ※ 中城村、宮城島、久米島、伊江島では特に多発生

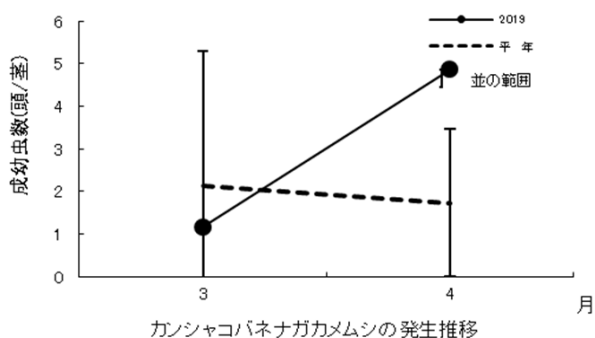
防除のポイント

- ・多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期発見・防除に努める。
- ・本種は秋期に飛来した有翅虫が第一世代となり、数世代にわたり増殖して春期の大発生を引き起こす。葉裏をよく確認し、発生が見られる場合は初期防除を行う。
- ・多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
- ・捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。

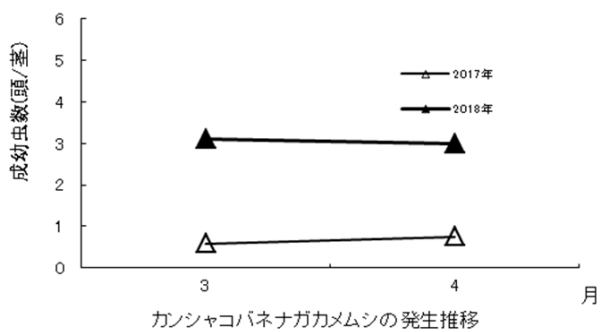
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① カンシャコバナネナガカメムシ(ガイダー)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	-	
	4 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

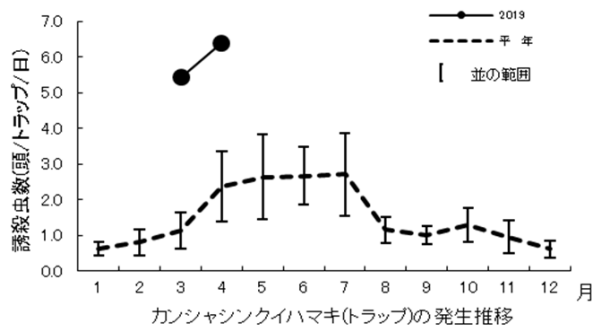
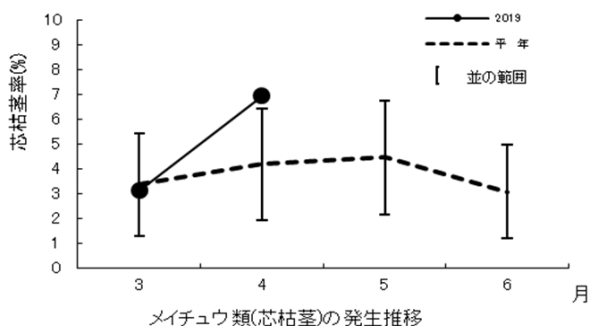


防除のポイント

- ・ 茎当たり虫数が 20 頭を超える場合は防除を行うことが望ましい。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



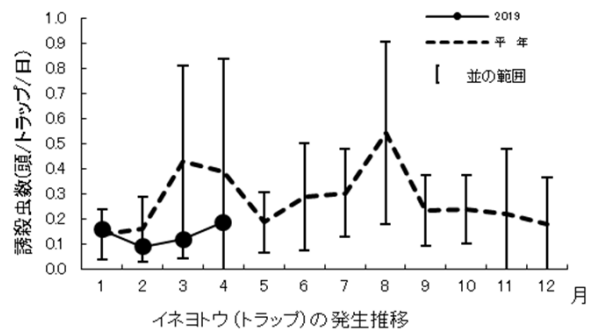
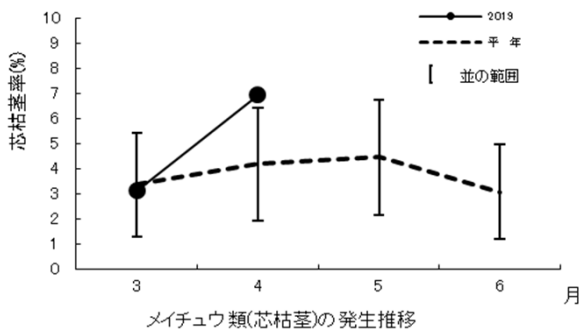
- ※ メイチュウ類の97%がカンシャシクイハマキであった
- ※ 久米島ではメイチュウ類が多発生

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



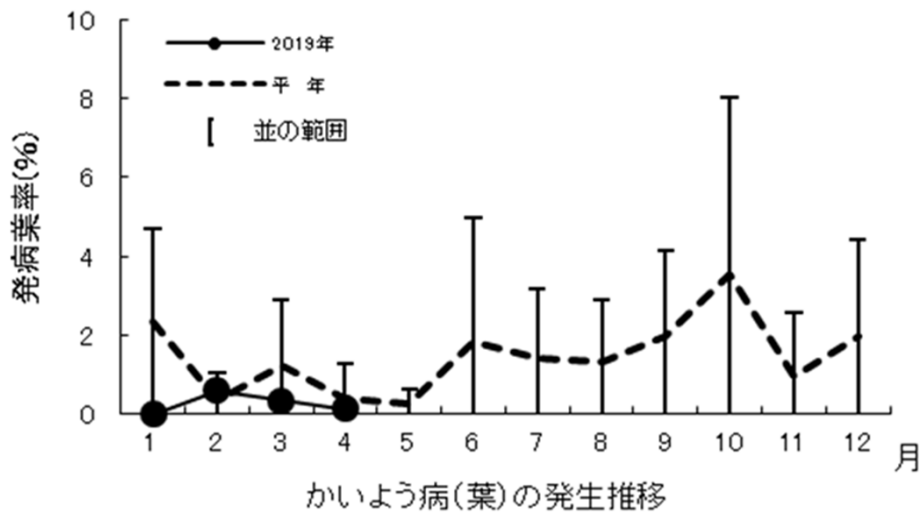
- ※ メイチュウ類の2.7%がイネヨトウであった
- ※ 久米島ではメイチュウ類が多発生

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	5 月の発生量（平年比）	並～やや多	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 今後 1 か月の降水量が平年並か多い見込み	

調査結果

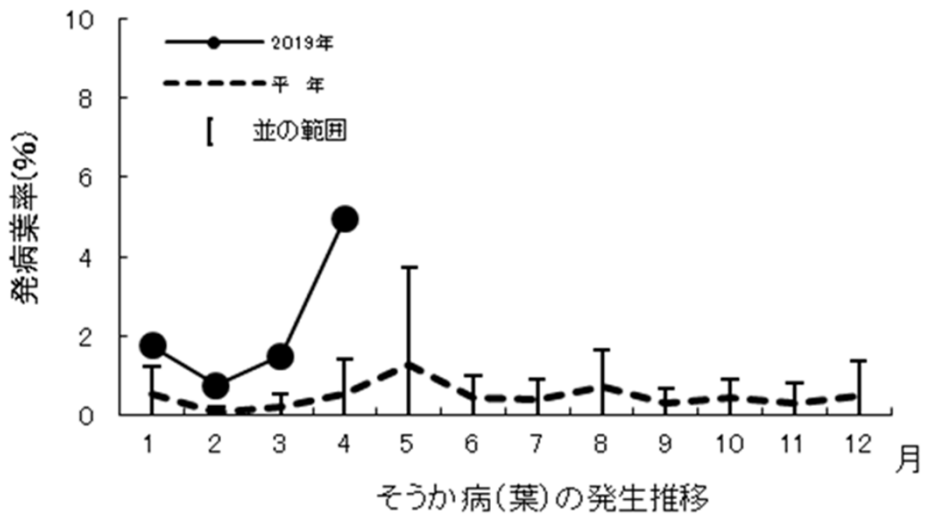


防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	5 月の発生量（平年比）	多	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果



- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

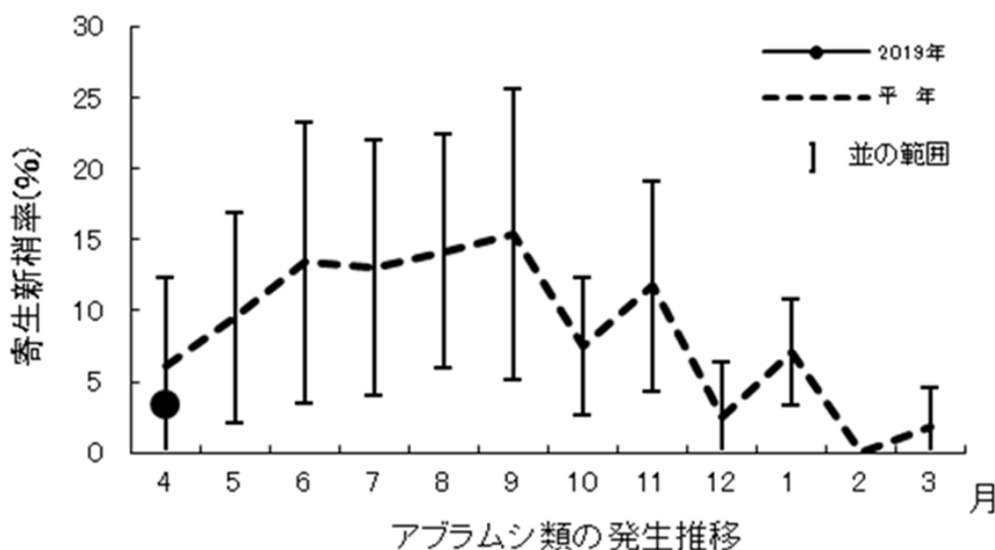
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	



調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

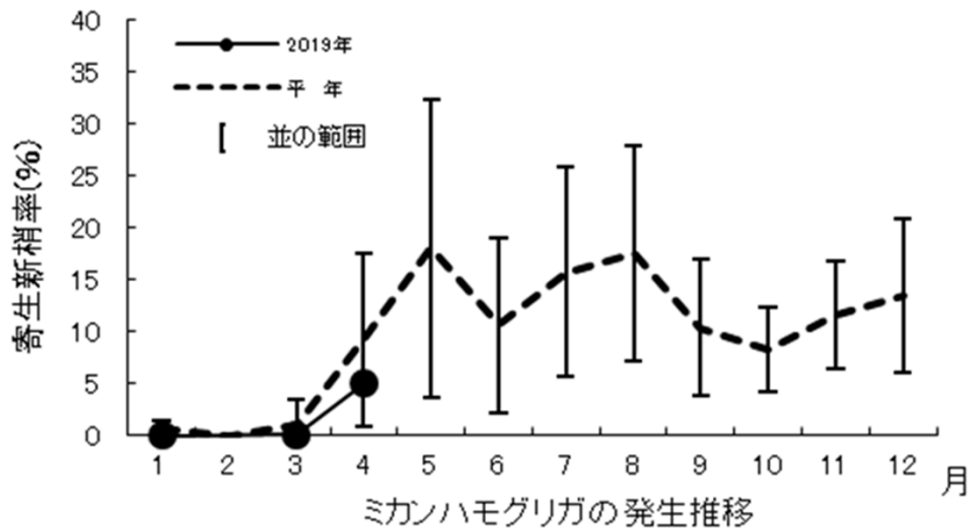
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

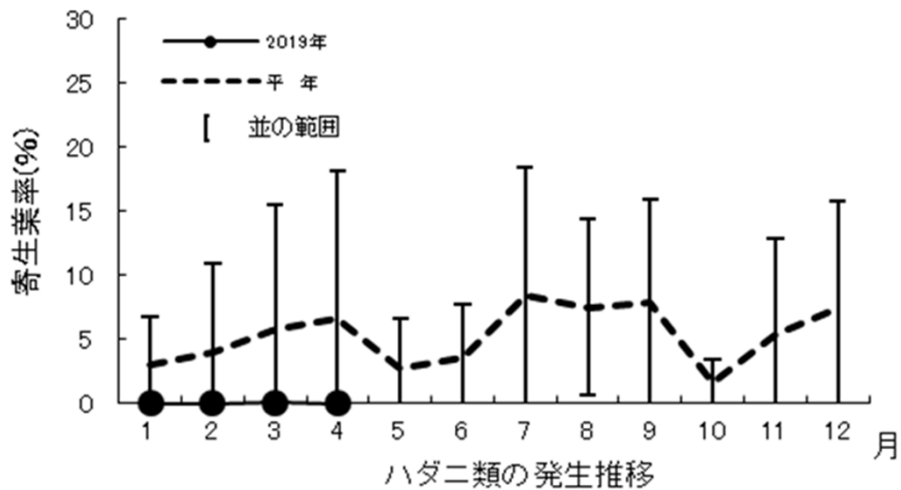


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすいため、除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果




防除のポイント

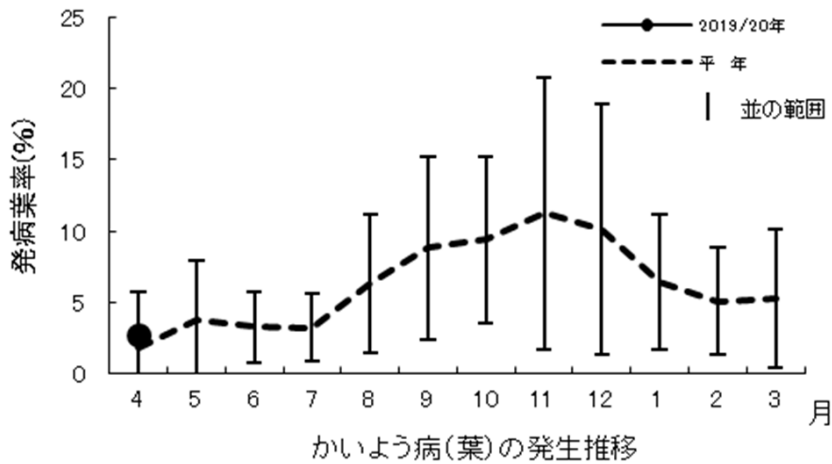
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状


作物	かんきつ (タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
予報	5 月の発生量 (平年比)	並		
	4 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の降水量が平年並か多い見込み	
	その他 (気象要因など)			

調査結果

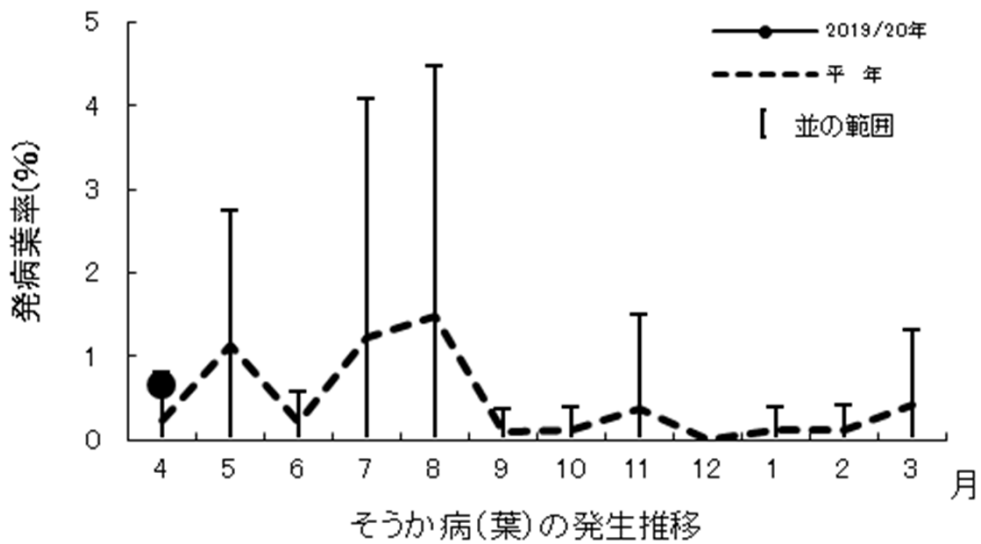


防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。


作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

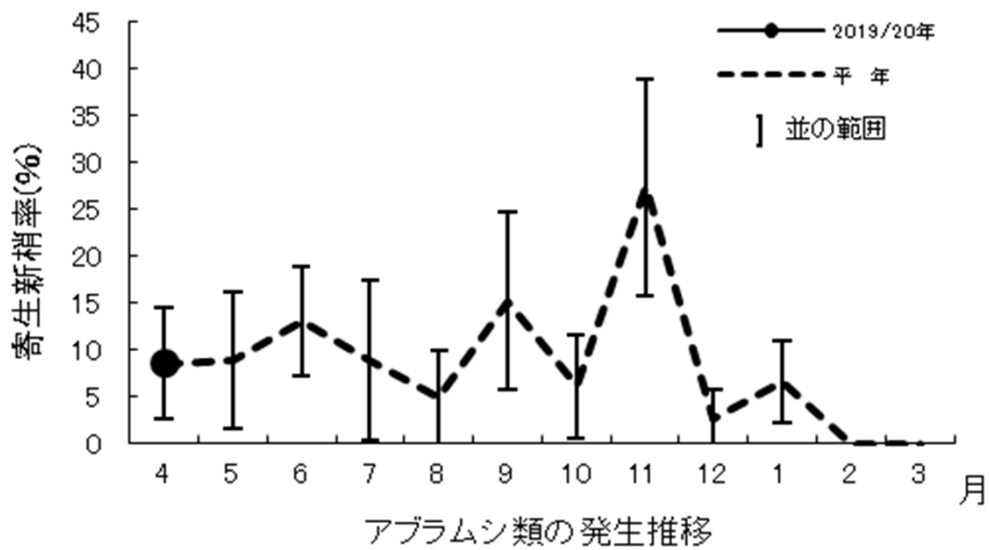


防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

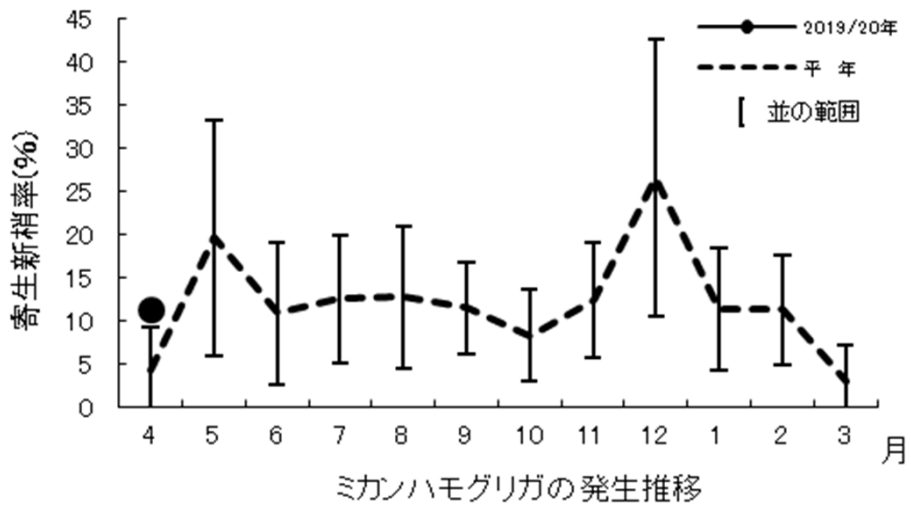
- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	5 月の発生量（平年比）	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	




調査結果

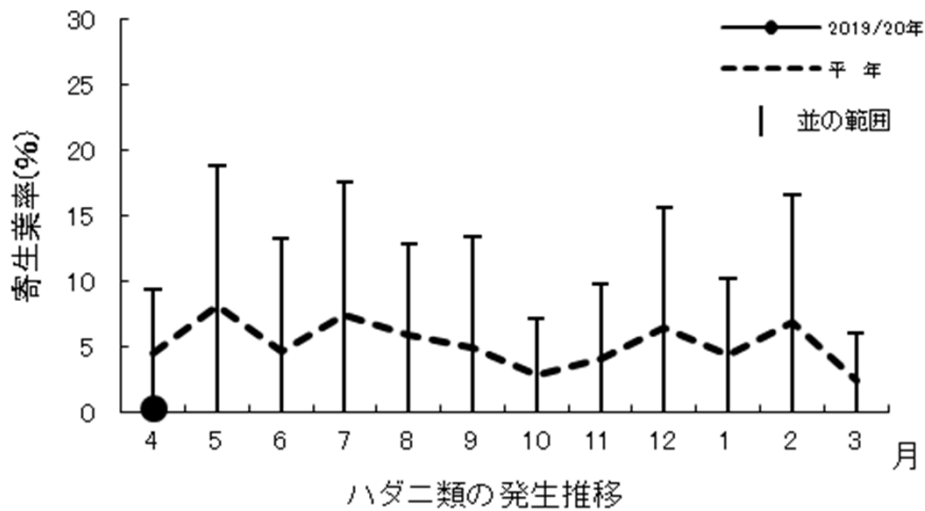


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類			
予報	5 月の発生量（平年比）	並		
	4 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	4 月の発生量（平年比）	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）		

調査結果




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

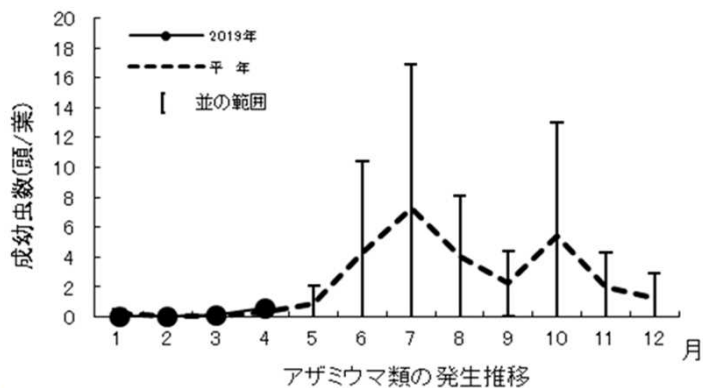


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

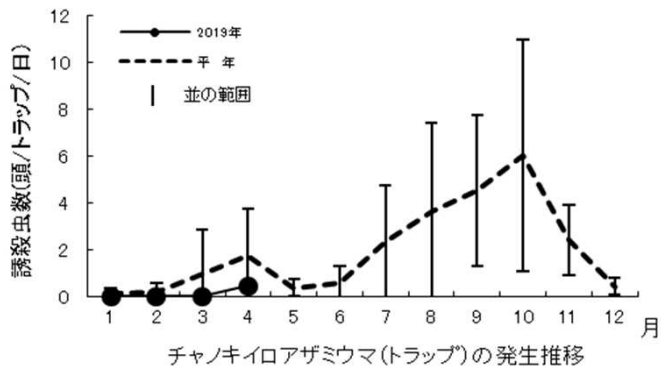
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	トラップ誘殺虫数が平年並 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

(見取り調査)



(トラップ調査)




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島南部）

防除のポイント

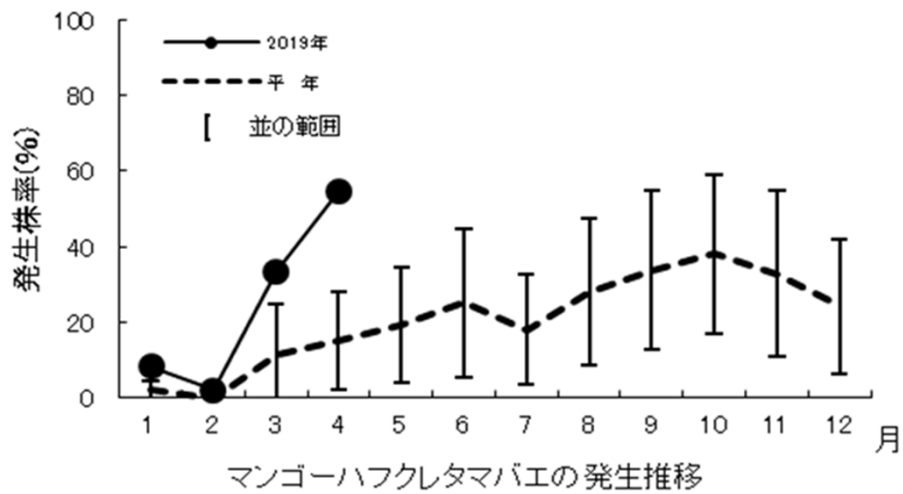
- ・ 開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	多	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	新梢の発生量が増加するため 平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



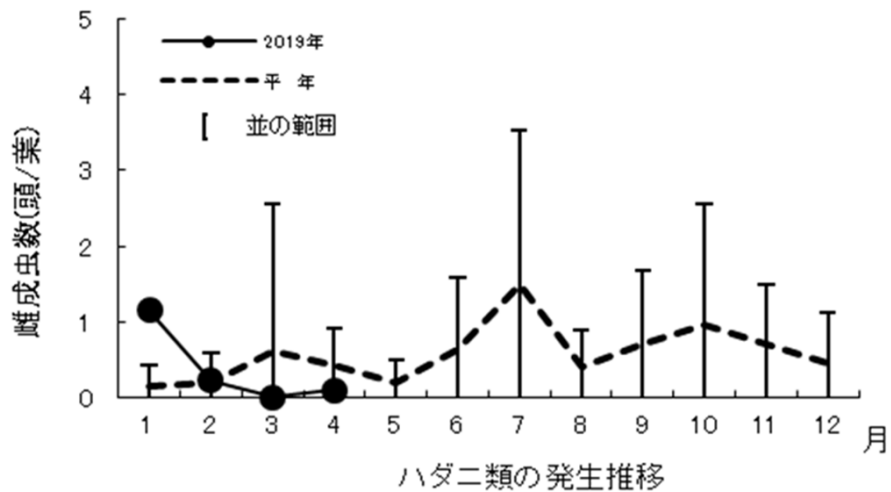
- ・ 被害新梢率：16.2%
- ・ 発生施設率：100%

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は、ほ場外に除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
- ・ 発生施設率：25% (平年38.3%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭以下 (シュレイツメハダニ)

防除のポイント

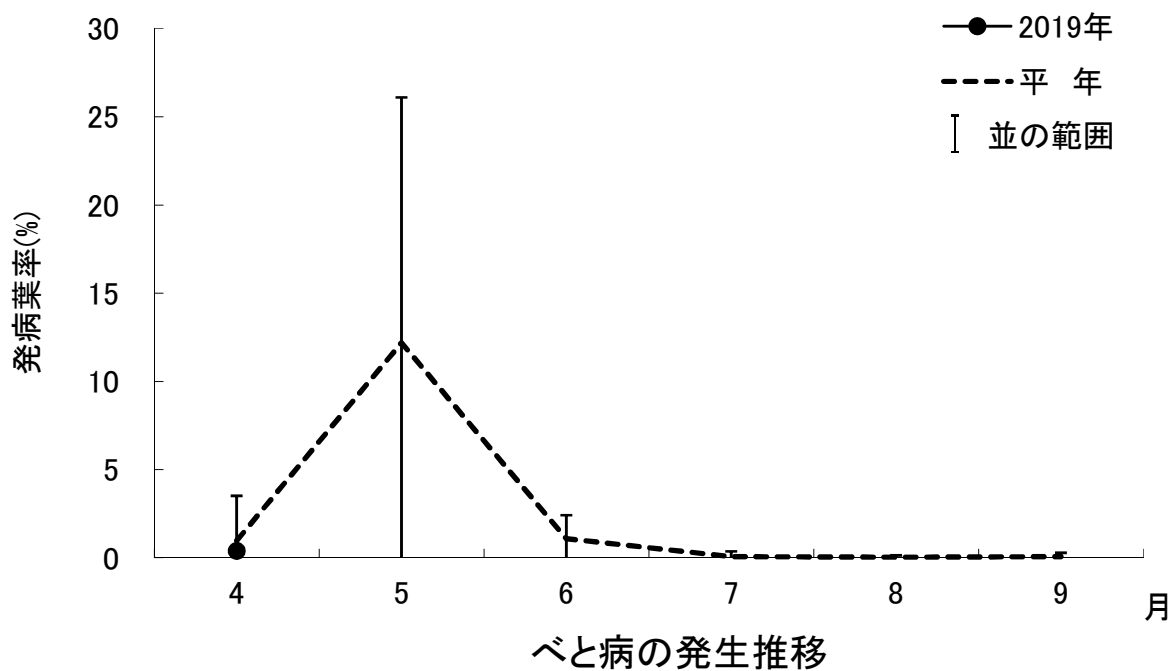
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	へちま		地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病			
予報	5 月の発生量 (平年比)	並~やや多		
	4 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の降水量が平年より多い見込み		

調査結果

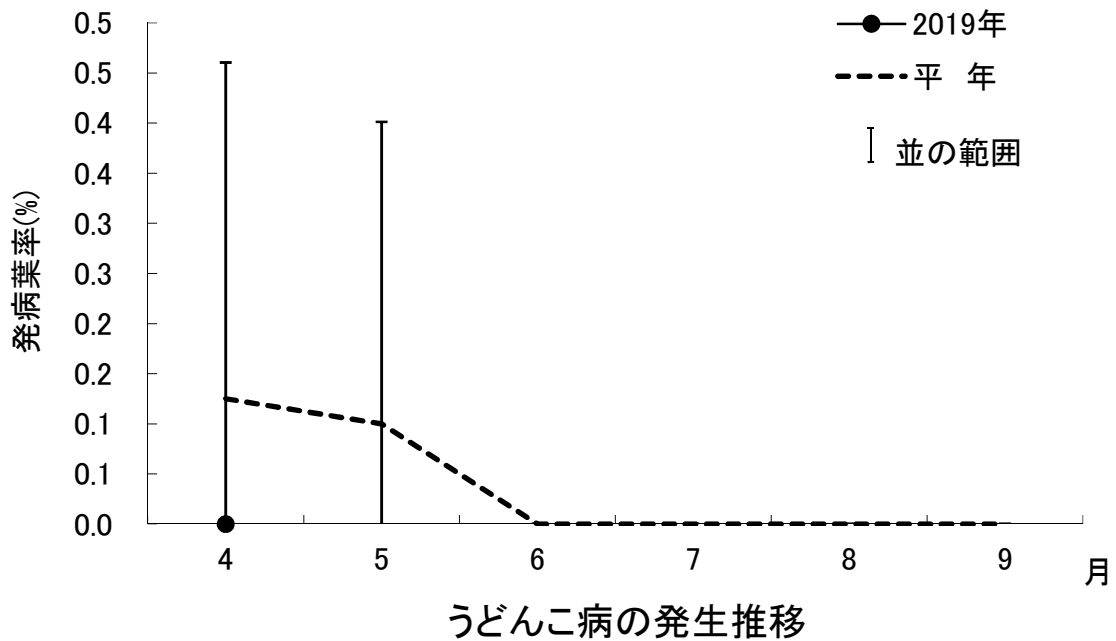


防除のポイント

- ・ 気温が10~25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

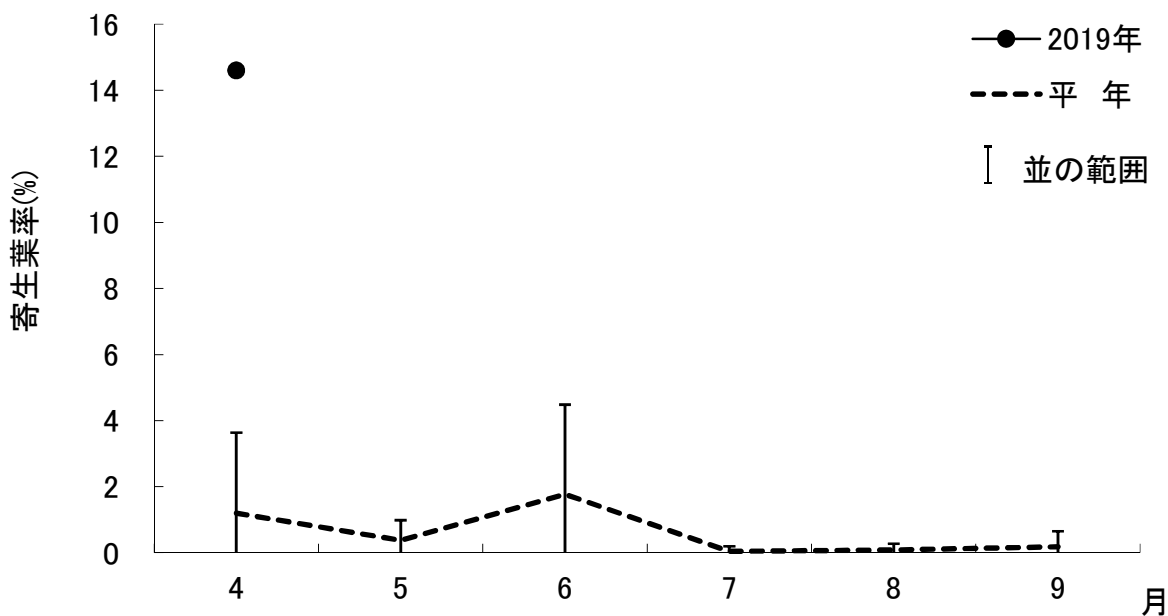


防除のポイント

- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 窒素質肥料の多施用は避ける。
- ・ 発病初期から登録薬剤を散布する。

作物	へちま		地域	沖縄群島	
病害虫名	③ ハモグリバエ類				
予報	5 月の発生量 (平年比)	多			
	4 月からの増減傾向	↓			
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多			
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)			


調査結果



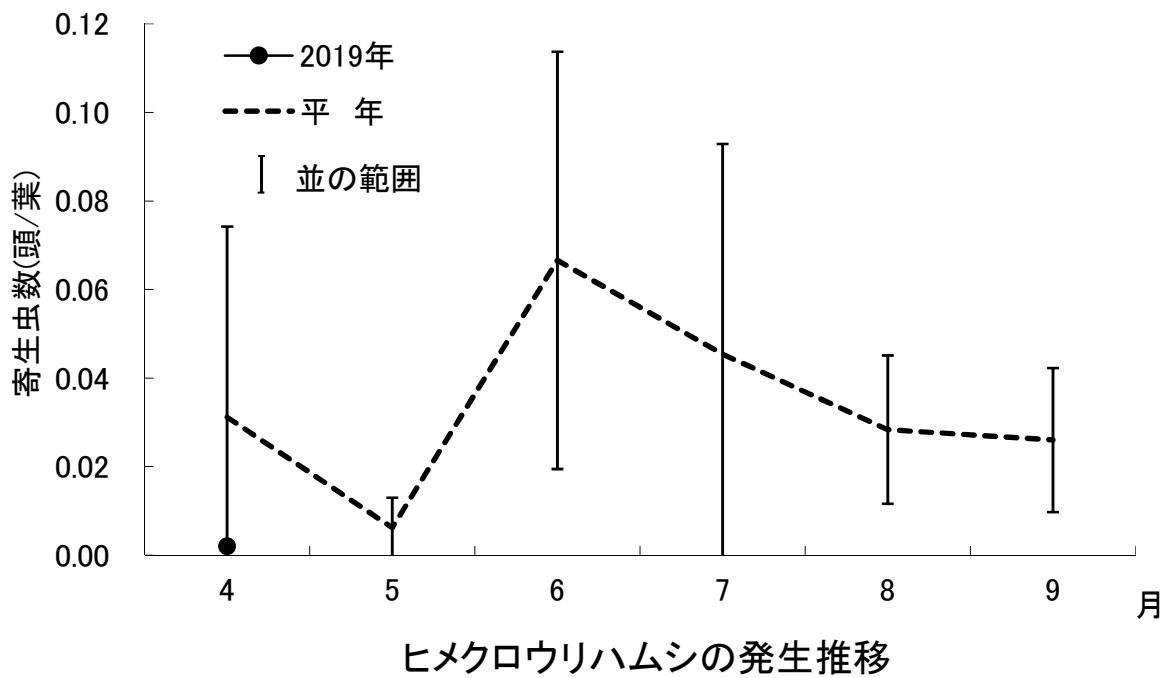
ハモグリバエ類の発生推移

防除のポイント

- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
	4 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

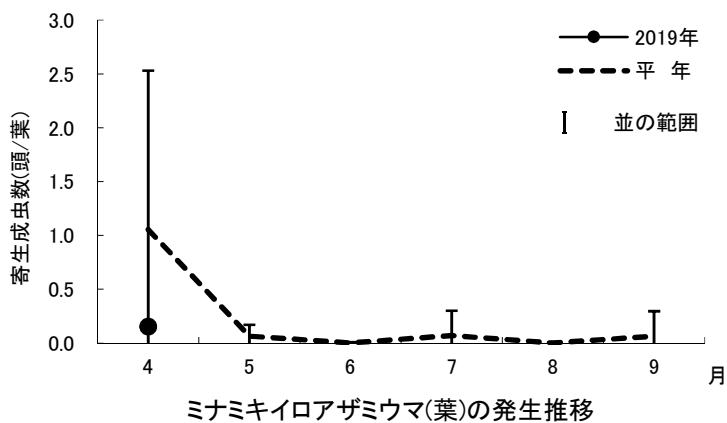
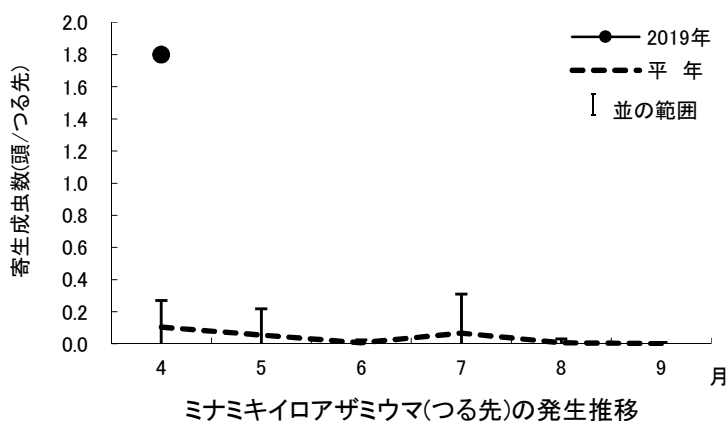


防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	多	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	つる先の平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

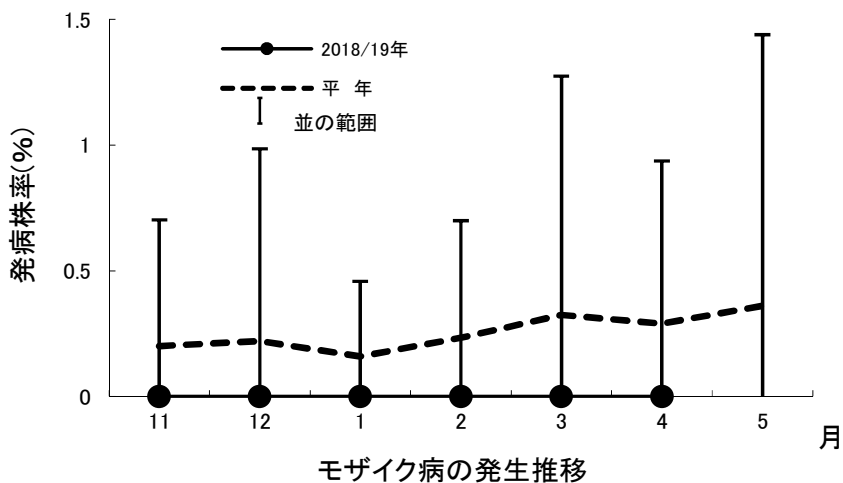


防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

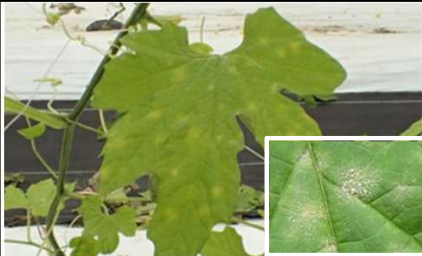
作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 媒介虫(アブラムシ類)の発生量が多いため	

調査結果

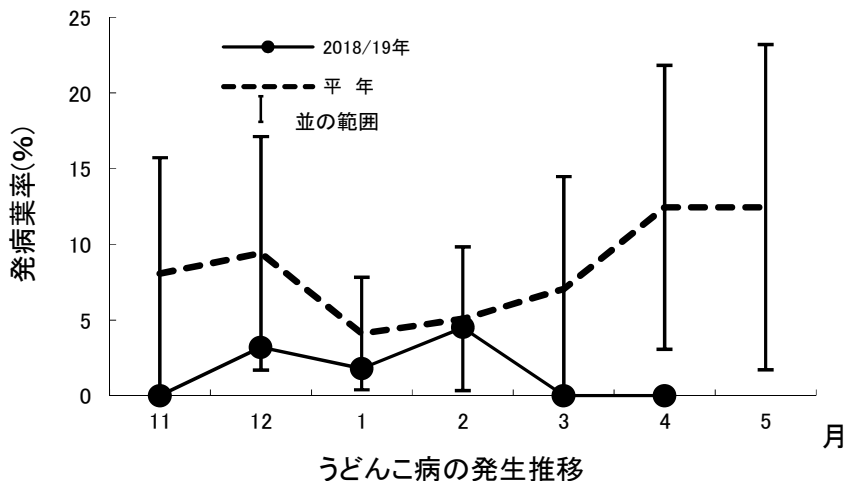


防除のポイント

- ・ 灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

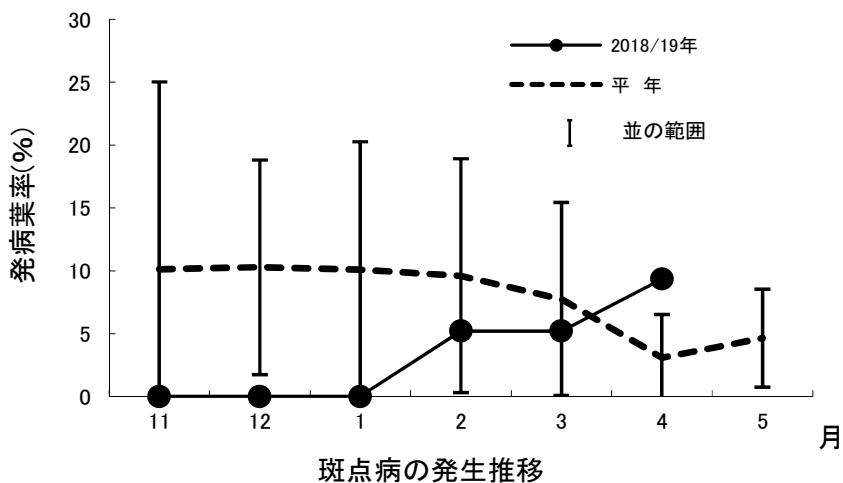


防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ 斑点病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

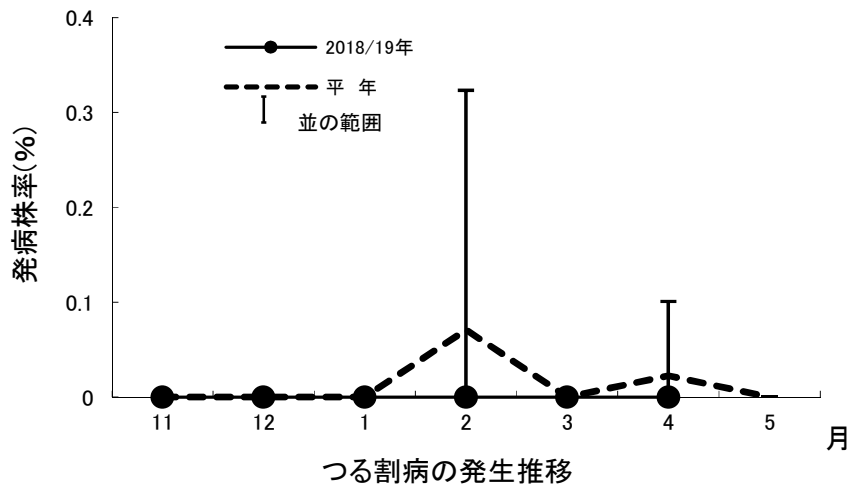


防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	つる割病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の降水量が平年より多い見込み	

調査結果

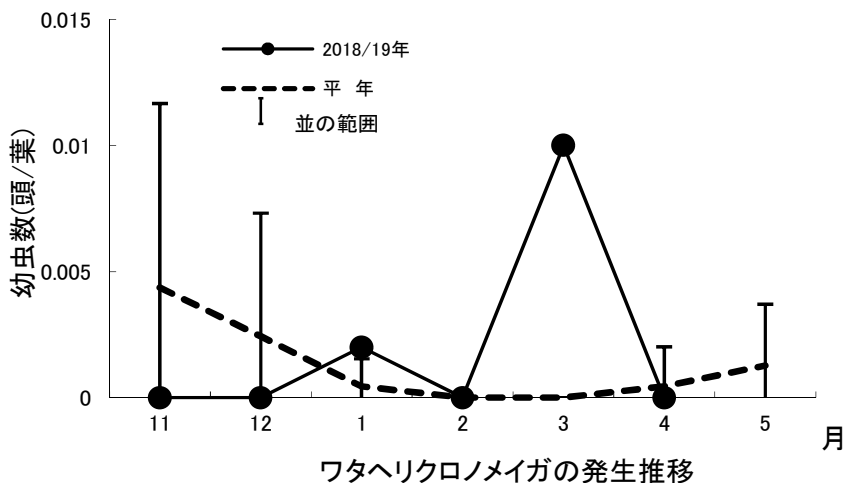


防除のポイント

- ・ 抵抗性接ぎ木苗を使用する。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、発生前の予防に重点を置く。
- ・ 発病した株は除去し、施設外に持ち出し処分する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ワタヘリクロノメイガ		 <p>老齡幼虫</p>
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



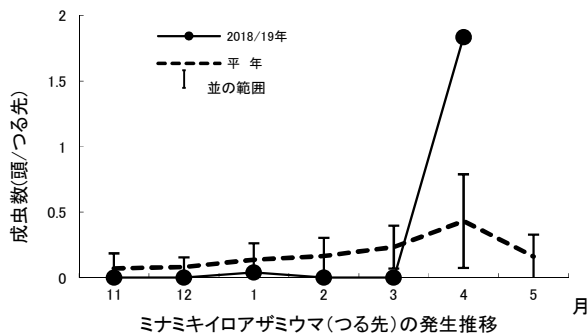
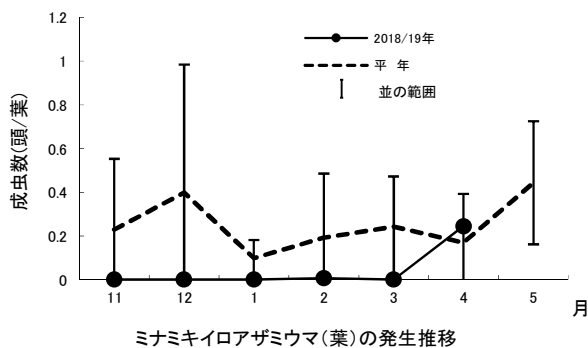
防除のポイント

- ・老齡幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齡期の防除が重要である。



作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	多	
	4 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	つる先当たり成虫数が平年より多いため	

調査結果




防除のポイント

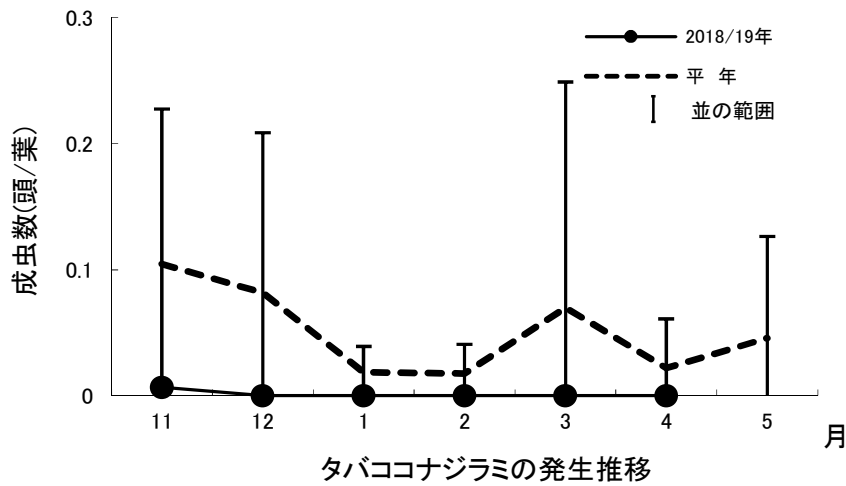
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



果実の被害


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ タバココナジラミ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

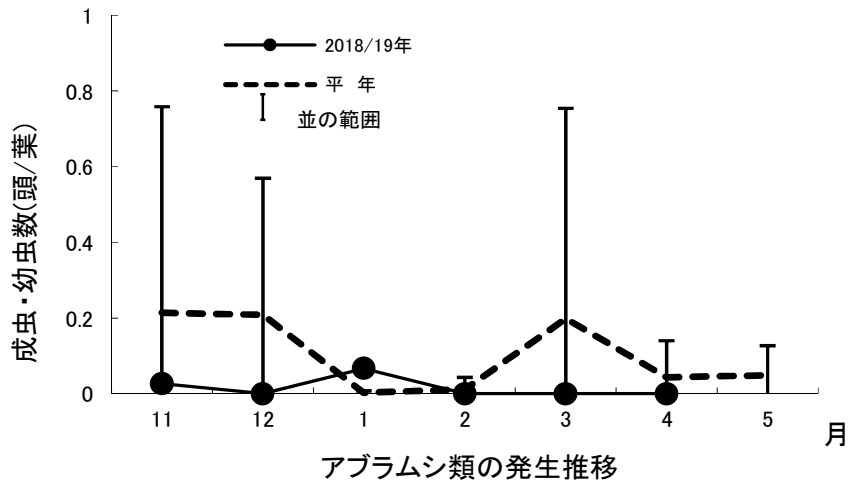


防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑦ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

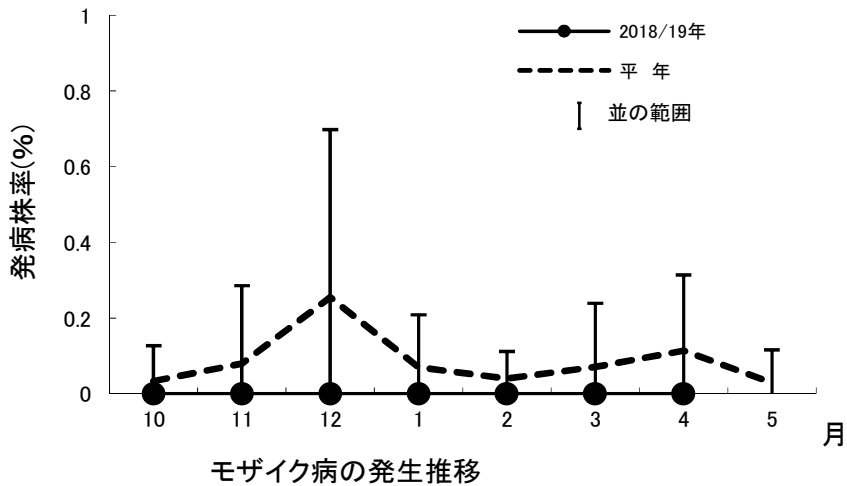


防除のポイント

- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

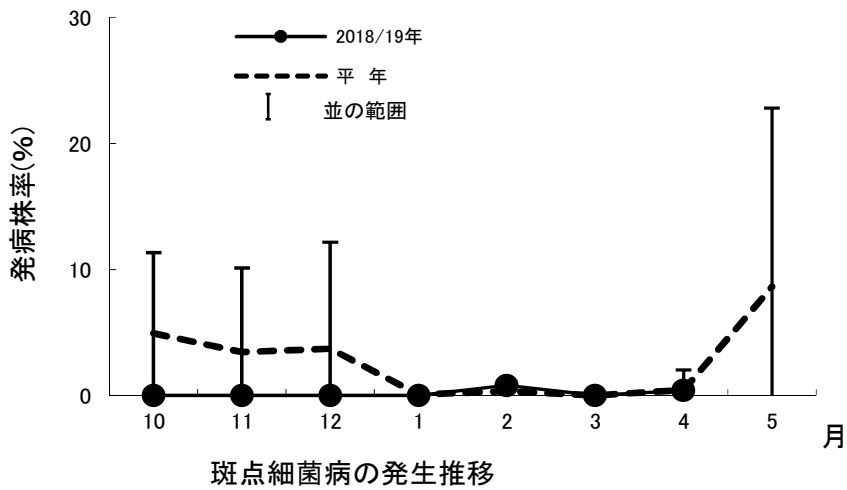


防除のポイント

- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点細菌病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

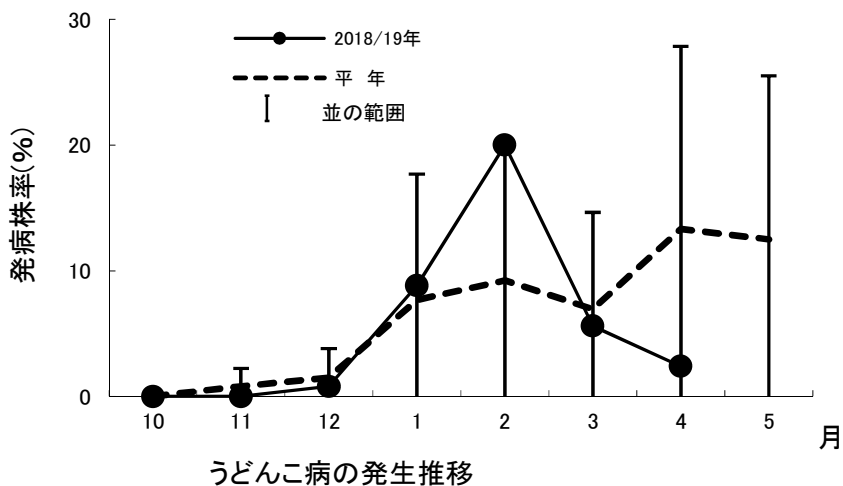


防除のポイント

- ・本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。



作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ うどんこ病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

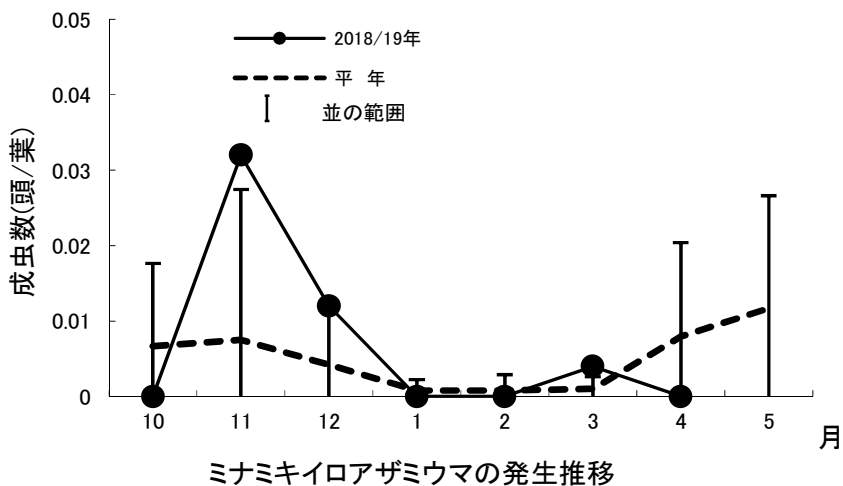


防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミナミキイロアザミウマ		 
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

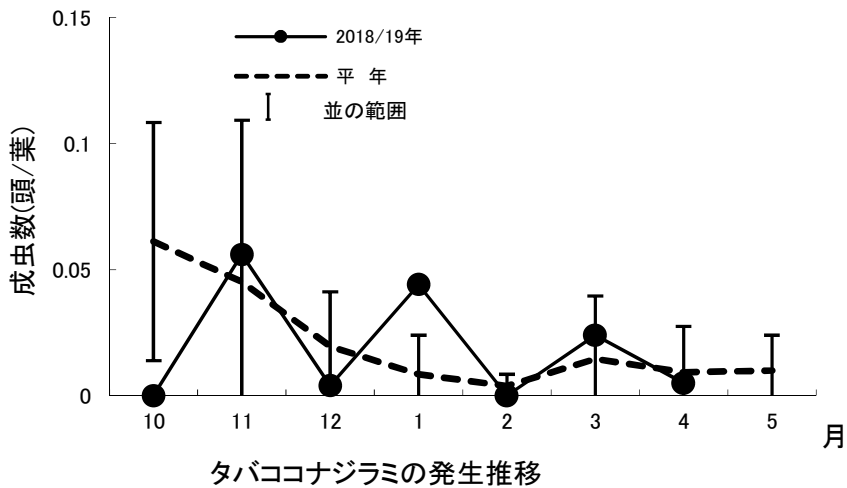


防除のポイント

- ・ 本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・ 施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・ 繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

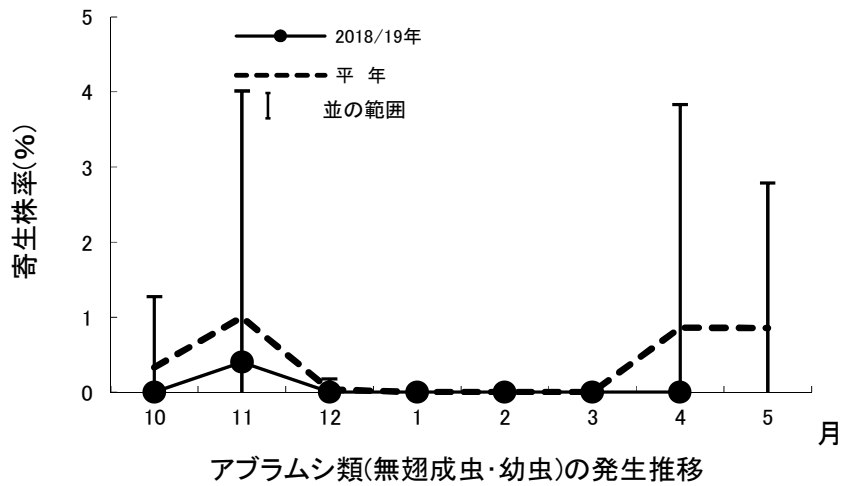


防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ アブラムシ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

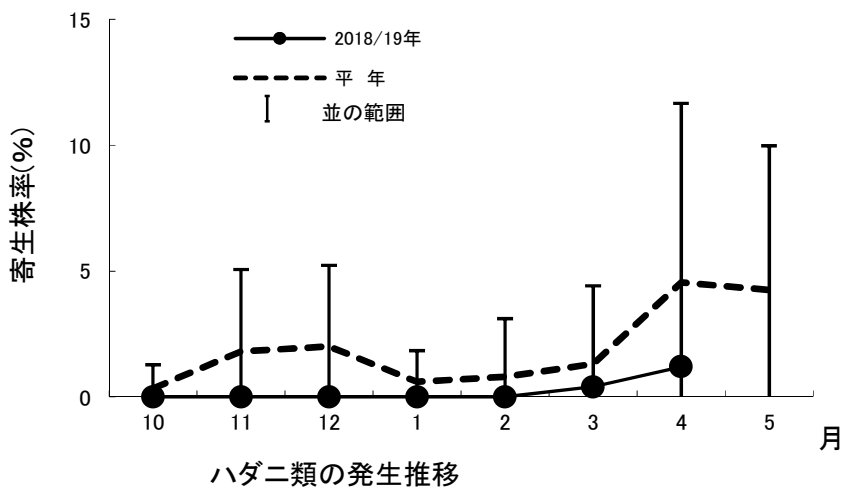


防除のポイント

- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑦ ハダニ類		 <p>ナンゴクナミハダニ</p>
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




- ・発生種は、ナミハダニであった。

防除のポイント

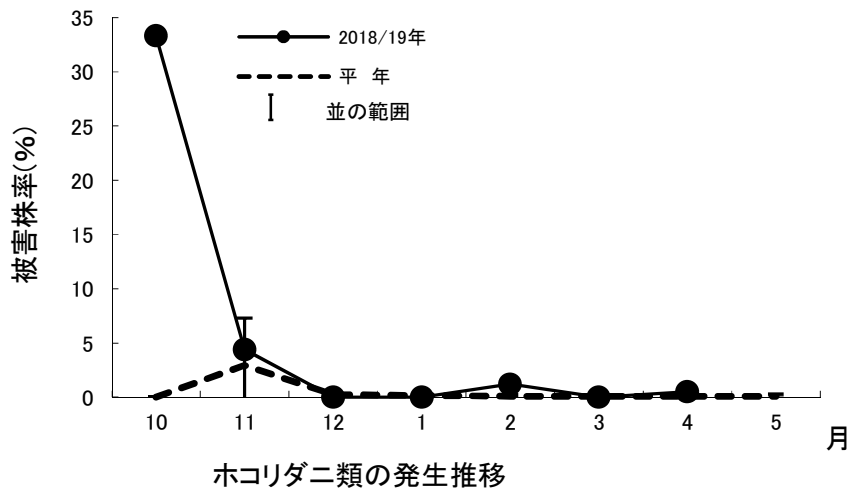
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。



ナミハダニ

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑧ ホコリダニ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



防除のポイント

- ・ 短期間で高密度になりやすいになるため、早期発見・防除に努める。
- ・ 施設内のナス科雑草は発生源となるので除去する。
- ・ 薬散は葉裏へ丁寧にいき、生長点付近や未展開葉に潜っている個体へ薬剤がかかるようにする。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。